

# 東三河海洋環境探究講座

平成20年度より実施している東三河海洋環境探究講座（SSH中核的拠点育成プログラムにおける事業の一つ）の成果を踏まえ、平成26年度も東三河海洋環境探究講座（SSHにおける事業の一つ）として実施する。

昨年度と同様に、三河湾・伊勢湾との比較を行い、海洋環境を学ぶ機会とする。

## 《参加者》

○ 高校生19名（男12名、女7名）

※豊橋東高校（男3名）、豊橋西高校（女3名）、国府高校（男2名）、成章高校（男3名）  
時習館高校（男4名、女4名）

○ 時習館高校教員3名

## 《日程》

(1) ウニの受精・発生観察実習 名古屋大学大学院理学研究科附属臨海実験所（鳥羽市菅島）

平成26年7月26日（土）

ア 【実習】磯採集と分類実習

イ 【実習】ウニの受精観察・発生観察

ウ 【実習】ウニの発生観察・夜光虫観察

平成26年7月27日（日）

エ 【実習】ウニの発生観察

オ 【講義】「海産動物における受精・発生研究」 講師：澤田 均氏

カ 【実習】ウニの発生観察（幼生観察）

キ 【実習】ウニの発生観察、観察記録のまとめ

(2) 洋上実習 三河湾～伊勢湾～三河湾

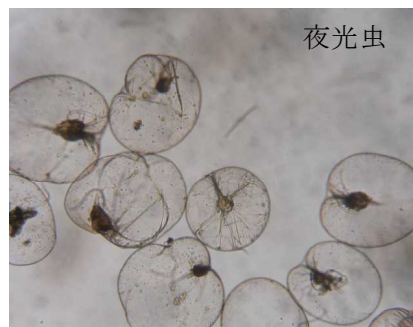
平成26年7月30日（水）

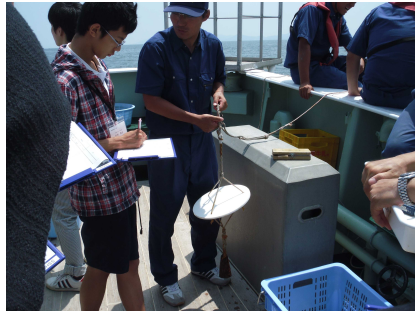
ア 県立三谷水産高等学校実習船「愛知丸」に乗船、竹島埠頭出港

【実習】環境指標調査、採水、プランクトンの観察、アサリの水質浄化実験

## 《実施風景》

(1) ウニの受精・発生観察実習





#### 《参加生徒感想》

- 受精や細胞の成長だけなら教科書や資料集で見られるけれど、実際にウニから卵と精子を取り出し、受精までさせるのは普段なら絶対にできないことなので、すごくいい体験ができた。自分の力だけではウニから精子や卵を取り出すこともできないし、顕微鏡でウニの成長していく過程をじっくり観察することもなかなかできることではないので、いい機会を与えてもらったと思う。
- 磯採集では、見たことのない生物やそれらの生態を見ることができ、とても興味を持ちました。特に、ひも虫という生物や、今回採集できた生物の中で人に一番近いホヤなど、もっと深く知りたいと思いました。
- 船の仕事に就かなければ一生見ることができないであろう船内を見たり、体験できないであろうことをできたのが本当に良かったと思います。私は船に長時間乗ることが今まで一度もなかったので貴重な経験をさせてもらいました。特に4つのポイントでの水質調査やプランクトン採集、採泥底質調査の中では、自分は内海の方がきれいだと思っていたのですが、外海の方がきれいであることに驚きました。
- アサリの浄化実験では、時間がたつにつれてどんどん濁っていた水がきれいになっていくのを自分の目で見るのができ、ふだんは見られないものを見られて良かったです。ブリッジに入らせてもらって、船のさまざまな設備を見ることができ、とても貴重な時間でした。今回の洋上実習で、海洋にも少し興味が持てました。
- 貧酸素の泥が硫化水素の臭いがすることに驚きました。その一方で、三河湾の底には貧酸素の泥がたくさんあるという現実も知りました。今回の講義で、赤潮が死に、それが沈降した死がいになることを知りました。最近赤潮というのが多くなり、それを機に何万匹もの魚や生き物が死んでいます。自分は、同じ生き物としてそんなに簡単にたくさん死んでほしくはありません。今自分ができることを見つけ出し、少しでも良い三河湾になれば良いなと思いました。